

# § 6. Jordan 標準形（べき零行列の場合）

輪講 #3

2025-02-23

# Jordan 細胞, Jordan 標準形

**定義 6.1:**  $\lambda \in \mathbb{C}$  に対して, 次の  $J(\lambda; n)$  を **Jordan 細胞** という :

$$J(\lambda; n) = \begin{pmatrix} \lambda & 1 & 0 & \cdots & 0 & 0 \\ 0 & \lambda & 1 & \cdots & 0 & 0 \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \vdots \\ 0 & 0 & 0 & \cdots & \lambda & 1 \\ 0 & 0 & 0 & \cdots & 0 & \lambda \end{pmatrix} \in M_n(\mathbb{C}).$$

Jordan 細胞を用いて, 次のように表される正方行列を **Jordan 標準形** という :

$$\begin{pmatrix} J(\lambda_1; m_1) & & & \\ & J(\lambda_2; m_2) & & \\ & & \ddots & \\ & & & J(\lambda_r; m_r) \end{pmatrix} \in M_{m_1 + \cdots + m_r}(\mathbb{C}).$$

# べき零行列

- 正方行列  $N$  が**べき零**であるというのは、 $N^k = O$  となるような  $k$  が存在すること.

例:  $\begin{pmatrix} 0 & a \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 & a & b \\ 0 & 0 & c \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$  はべき零.

**定理 6.1:**  $N \in M_n(\mathbb{C})$  がべき零  $\Leftrightarrow N$  のすべての固有値が 0.

Proof:

- ( $\Rightarrow$ ) 固有値  $\lambda$  の固有ベクトル  $v$  に  $N$  を左から然るべき回数掛けると,  
 $0 = N^k v = \lambda^k v$  より  $\lambda = 0$ .
- ( $\Leftarrow$ ) 固有多項式は  $\phi_N(x) = x^n$ . Cayley-Hamilton の定理より  $N^n = O$ .

□

**Remark** 対角化可能なべき零行列は零行列に限る.

# べき零行列のべきの特徴付け

**定理 6.2:**  $N \in M_n(\mathbb{C})$  をべき零行列とする.  $k$  を  $N^k = O$  となる最小の自然数とすると,  $k \leq n$ .

Proof:  $N^{k-1} \neq O$  より  $N^{k-1}x \neq 0$  なる  $x \in \mathbb{C}^n$  がとれる.

**Claim**  $x, Nx, \dots, N^{k-1}x$  は一次独立.

- 線型関係式  $\sum_{0 \leq i < k} c_i N^i x = 0$  を考える.
- 両辺に  $N^{k-1}$  を左から掛けることで  $c_0 = 0$  を得る.
- 同様に  $N^{k-2}, \dots, N, I$  を左から掛けることで線型関係式が自明であることがいえる.

したがって, 特に  $k \leq n$  がいえる.

□

# べき零行列の Jordan 標準形

**定理 6.3:**  $N \in M_n(\mathbb{C})$  がべき零行列ならば, ある正則な  $P \in M_n(\mathbb{C})$  が存在し,

$$P^{-1}NP = \begin{pmatrix} J(0; m_1) & & \\ & J(0; m_2) & \\ & & \ddots \\ & & & J(0; m_r) \end{pmatrix}.$$